

教科名	理科	科目名	化学基礎+化学	年次	2年次	単位数	4
教科書	改訂 新編 化学基礎(東京書籍) 化学 Vol.1 理論編 化学 Vol.2 物質編(東京書籍)		副教材	ニューグローバル 化学基礎+化学 新課程 (東京書籍)			

1 科目の目標

化学的な事物・現象を深く取り扱い、理科の見方・考え方を働かせ、見通しを持って観察、実験を行うことなどを通して、科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する事を目指す。

2 学習について

①予習・復習の方法

予習：单元ごとの教科書の内容を読み、自分の分からない所をチェックしておく。

復習：化学の用語を覚えるだけでなく、原理・原則を理解するようにしておく。

②授業における学習方法

授業プリントを活用し、授業の内容だけでなく先生が話した内容で大切なことや関連する事柄をメモしておき、自分が見直したときに分かり易いプリントを作成するように心がける。

③家庭学習のポイント

宿題は、出された当日に必ず自分の力でやる。また授業で扱ったプリントを見直すだけでなく、授業の内容に準ずる範囲の問題集を自分で解き直し、内容の理解を深める。さらに各自でスタディサプリを積極的に活用する。

3 学習計画

考査	单元名 (学習項目)	学習内容 (ねらい)
前期中	物質とその構成元素 化学結合 物質量	自然界より物質をどんどん掘り下げて原子まで見ていく。 自然界を構成する物質を大分類し、特徴を見ていく。 化学の計算上、便利な物質慮の概念を取得する。
前期末	化学反応式 酸塩基 酸化還元反応 化学が拓く世界	さまざまな化学反応を代表的なものを取り上げて見ていく。 酸とは塩基について学習し、中和反応の量的関係まで学習する。 化学の二大反応のもうひとつ、酸化還元反応について学習する。 今まで学習してきた「化学」が身のまわりでいかに活かされているかを学習する。
後期中	電池・電気分解 状態変化 固体の性質	酸化還元反応を利用して化学エネルギーを電気エネルギーに変換する原理を学び、表現する。また、電気エネルギーを用いて、強制的に酸化還元反応を起こす操作について学び、表現する。 温度や圧力によって物質の状態は変化するが、その条件や変化の様子を学び、表現する。 結晶の種類によって構造が異なっており、構造の違いや性質の違いを理解し、表現する。
学年末	気体の性質 溶液の性質 化学反応と熱、光エネルギー	温度や圧力の変化に伴い、気体の体積や状態が変化することを学び、表現する。 溶液の種類や性質を学ぶ。 化学反応に伴う熱や光の原理について理解し、日常生活での応用の仕方を学び、表現する。

4 観点別評価

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
化学の基本的な用語・理論・計算などを身に付けることができる。	論理的に考える力を伸ばし、他者と学びあいができるようになる。	身の回りの自然現象を「化学の目」で見るといった態度を養うことができる。

5 評価方法

計140時間 (50分授業)

上記の観点を踏まえ、定期考査・課題考査・宿題などの提出された課題、学習態度等を以下の割合で総合的に評価する。

知識・技能・・・40% 思考・判断・表現・・・30% 主体的に学習に取り組む態度・・・30%